



むすび

～ 子どもたちに何を伝えていくか ～

下のイラストは、今から約40年前の昭和48年に発行された小学生向けの学習図鑑に描かれた将来の海中牧場の姿です。この年は、石油ショックを契機に、日本経済が高度成長の時代から安定成長の時代へと移行していく大きな転換期に当たります。また、前年にストックホルムで開催された国連人間環境会議では、「かけがえのない地球（ONLY ONE EARTH）」という言葉が提唱され、環境問題に対する関心が世界的に高まっていくきっかけとなりました。人々の社会認識や価値観が大きく変化する時期だったのです。

この時代は、水産業にとっても大きな転換期でした。世界の沿岸国が200海里の排他的経済水域の設定に向けて動き出し、我が国の漁業が「沿岸から沖合へ、沖合から遠洋へ」という外延的な発展を遂げてきた時代が終わり、獲る漁業から作り育てる漁業への転換が叫ばれるようになりました。イラストに描かれた魚の家や海藻育成施設からは、水産資源の大切さと夢ある未来を子どもたちに伝えようとした大人たちのメッセージが伝わってきます。

現代の漁業・漁村もまた、大きな転換期にあります。このイラストが描かれた当時とは、漁業・漁村をめぐる状況や人々の価値観は大きく変わっています。ただ、海が子どもたちの憧れの対象であることは今も昔も変わらないでしょう。そして、我が国周辺の恵まれた水産資源を国民の財産として大切に管理しながら持続的に活用しなければならないという人々の思いは、一層高まっています。

本特集では、漁業・漁村の歴史を振り返りながら、日本人と海、日本人と魚の関わり合いについて述べてきました。皆さんが思い描く漁業・漁村の将来像はどのようなものでしょうか。40年前の大人たちが子どもたちに伝えようとしたことに思いを馳せながら、私たちがこれからの時代を担う子どもたちに何を残し、何を伝えていけばよいのか、考えてみてはいかがでしょうか。



- ①海中牧場内のさかなを見はるイルカ。
- ②さかながにげないようにする水中エアカーテンや音のカーテン。
- ③海中牧場内を走る潜水船。
- ④ワカメなどの海ソウを育てる所。
- ⑤水中エアカーテンや音のカーテンで仕切られている養殖場。
- ⑥海底見はり所。
- ⑦海上見はり所。
- ⑧プランクトンを育てる所。
- ⑨集魚燈。
- ⑩集魚燈で集められたさかなをとる海中漁船。
- ⑪さかなの子を育てるさかなの家。
- ⑫大きなさかなを育てるさかなの家。
- ⑬海中スクーターで海中を見まわる人。
- ⑭海ソウを育てる所。

出典：(株)学習研究社「学研の図鑑 海」